

## 1. むらづくりの主体

(1) 名 称 仙田地区開発振興協議会

(2) 所 在 地 新潟県十日町市中仙田

(3) 地区の規模 集落の集合体

(4) 組織の性格 地縁的な集団

(5) 代表者の氏名(敬称略)、役職  
氏 名：金子 澄男  
役 職：会長

## 2. 地区の概要

総人口	農(林、漁)業 就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林	
794 人	220 人	306 戸	4,095 ha	168 ha	- ha	3,298 ha	
農家戸数	販売農家数	専業農家	第 種兼業農家	第 種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
181 戸	150 戸 (83%)	46 戸 (31%)	12 戸 (8%)	92 戸 (61%)	12 戸 (8%)	39 戸 (26%)	99 戸 (66%)
地域指定状況			農業地域類型区分				
その他：過疎、豪雪、特定農山村			市 町 村		当 該 地 区		
			中間農業地域		中間農業地域		

### 3. むらづくりの内容及び成果

#### (1) 地域の沿革と概要

##### ア 地区の位置

仙田地区は、長野県境に位置する新潟県十日町市の北西部にある山間地で、旧仙田村の10集落で構成される。標高150m～500mの間で沢と山が連続する起伏に富んだ地形をしており、林野率は80%で、平成5年度に特定農山村地域に指定されている。信濃川の支流である一級河川渋海川に沿って集落が点在しており、中世から近代にかけては渋海川がもたらした蛇行部分を人力で直流化させる「瀬替え」により新田開発や洪水防止に取り組み、古くから農業を中心とした里山文化を育んできた歴史的経緯や伝統行事の継承が行われている地域である。

国土地理院承認 平14総裁 第149号



図1 位置図

##### イ 地区の気象と自然

国内でも有数の豪雪地帯で、平成24年は積雪が3mを越えた。毎年雪まつりを開催したり、農産物の貯蔵を雪室で行うなど、雪を利用した取組みも盛んである。

##### ウ 地区の農業

地区の戸数は306戸、総人口は794人、農家戸数は181戸であり、7割が兼業農家である。

農地のほとんどが傾斜地に位置し、渋海川の蛇行を埋め立てた「瀬替え」に点在し、魚沼コシヒカリや特産のソバが生産されている。

#### (2) むらづくりの動機、背景

##### ア むらづくりを推進するに至った動機・背景

昭和50年代、高度成長とともに仙田地区から都市部への人口流出が拡大し、高齢化および過疎化の進行が進んだ。そのため、仙田地区全体の開発や振興を目的に、集落区長や各種団体の代表等を構成員として、昭和53年、「仙田地区開発振興協議会」が発足した。

##### イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

協議会発足後、「明日の仙田のために・・・」をスローガンに、仙田地区の将来構想について話し合いが重ねられた。山間地という地理的条件不利のなかで、集落を維持し、将来にわたり農業生産を続けながら一定の所得を得て生活するためには、まずは地区の基幹産業である農業振興が最優先であるという総意のもと、昭和54年以降、農業生産基盤となる農地や道水路の整備及び農業集落道や農村公園などの生活環境基盤の整備を一体的・総合的に行ってきた。こうした一連の事業実施を契機に、生産組織も立ち上げ農業生産の効率化を図るなど、個々の農家や集落の枠を越えた営農体制づくりを進めてきた。

平成10年には、協議会の構想の下で仙田地区全体の農業の将来を考える仙田地区営農委

員会を立ち上げ、営農体制や農地保全の一層の取り組みを行うこととした。特に、平成12年度に創設された中山間地域等直接支払制度には、仙田地区全体の活性化に結びつけ、全ての集落に恩恵が生まれるような仕組みを作りたいという思いから話し合いを重ね、通り耕作をしている2集落を含めた12集落で1つの集落協定を締結することとなった。

また、中山間地域総合整備事業により、体験交流館や直売所、体験農園、公園などを計画的に整備し、それら施設では女性や高齢者をはじめとする多様な者が参画する組織を立ち上げて管理・運営している。

このように仙田地区開発振興協議会が中心となって地域全体の活性化に向けた様々な取り組みを行ってきたにもかかわらず、農業の担い手不足や人口減少、高齢化世帯の増加等に歯止めがかからなかった。このため、このような状況を打開するため、仙田地区開発振興協議会の下に地域住民等も加えた「仙田地域活性化戦略推進協議会」を立ち上げ、そこで地域の声・考え方を確認しながら、将来の仙田地区を見据えた新たなまちづくりについて話し合いを重ねた。その結果、仙田地区の活性化構想となる「仙田地区創生プロジェクト」が策定された。この活性化構想の中では、「米、地野菜、山菜、そばの販路拡大と地区全体の生産体制を構築すること等による産業振興」「高齢者の日常的な買い物を行うための売店を整備するとともに、除雪や水路掃除などの生活サポートなどによる、暮らしと集落環境の維持」「仙田体験交流館を核として、廃校などの遊休施設を有効活用する拠点づくり」を柱としたものであり、これらを具体的に実現するための新たなむらづくりに取り組むこととした。

### (3) むらづくりの推進体制

#### ア 仙田地区開発振興協議会の組織体制、構成員の状況

仙田地区開発振興協議会は、集落区長、集落から選出された委員、地区内の関係団体の代表者で構成されている。年1回の総会、年6回程度の役員会を開催。

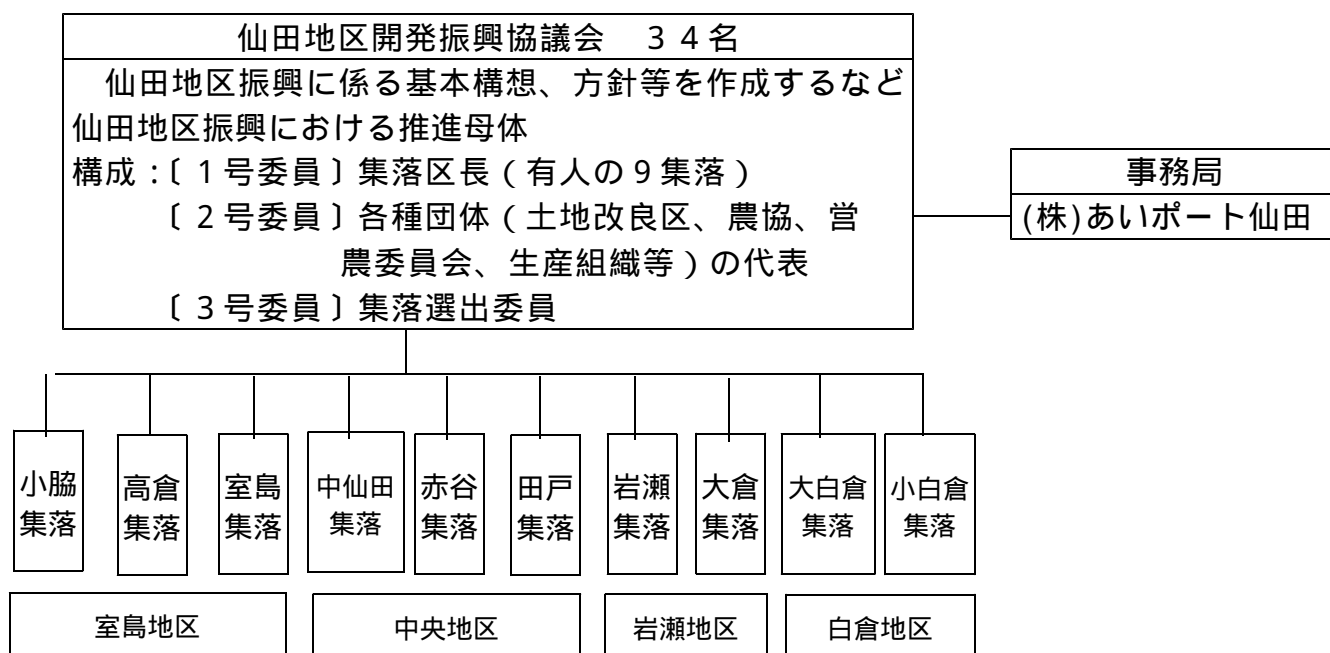


図2 むらづくり推進体制図

## イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

仙田地区開発振興協議会は、仙田地区振興に係る基本構想や方針等を作成し、仙田地区全体の振興を進める推進母体としての機能を果たしている。

実際の活動においては、仙田地区営農委員会や農業生産法人等を地区内に立ち上げて、協議会で定める構想・方針の下、協議会と連携を図りながら、多様な活動を展開している。

各種制度の活用、営農面については、十日町市、十日町農業協同組合、川西土地改良区、新潟県十日町農業普及指導センターの支援を受けている。

## ウ むらづくりに関して、各集落の住民の当該集団等や連携する他の組織、団体との関係及び参加状況等について

仙田地区開発振興協議会は、農家・非農家にこだわらず住民が参加でき、また関係する各種団体も構成員となっていることから、集落全体の意向が反映できる構成となっている。役員会、イベント開催時の打ち合わせ等も、いずれも参加状況は極めて高い。

## (4) むらづくりの農業生産面への寄与状況

### ア 当該集団等の農林漁業生産、流通面の取組み状況

十日町市は魚沼コシヒカリの産地であり、仙田地区で生産された米は高品質で良食味として評価を得てきた。農業生産基盤の整備や生産組織、法人の育成等により営農体制づくりが進めてきた成果もあり、地区の水田全体の73%に当たる138haの水田を中山間地域等直接支払制度の協定農用地として管理し、交付金を活用しながら現在も維持している。畑地においては、葉たばこ生産が縮小したあと、山間地で交雑が少ない地理的条件を生かして、十日町市の特産品である「そば(品種:とよむすめ)」の採種にも取り組んでおり、耕作放棄地の発生を防止しているほか、十日町地域のそば種子供給を担い、地域特産品の振興にも寄与している。

また、道の駅に併設される農産物直売所「仙田楽々市場(らくらくいちば)」は、市内外から多くの客が訪れる地元農産物の直売拠点となっており、直売所を開設したことで、仙田地区では園芸品目の作付けが拡大し、本格的に園芸導入を図る農家も出てきている。野菜や山菜を中心に販売は伸びており、平成22年の売上高は1,300万円に達し、農家所得の向上に結びついている。今後2~3年後を目処に農産物加工品の開発・販売も行う計画としている。

新しい試みとしては、新潟県中山間地域豊かな村づくり推進事業を活用し、雪室に保存することで雪中保管米として付加価値を高めた「せんだ米」の企画販売に取り組んでおり、地区出身者等を中心に販売を伸ばしている。



写真1、2  
楽々市場  
写真3  
せんだ米

## イ 当該集団等による生産力の向上、生産の組織化、生産・流通基盤の整備等への寄与状況

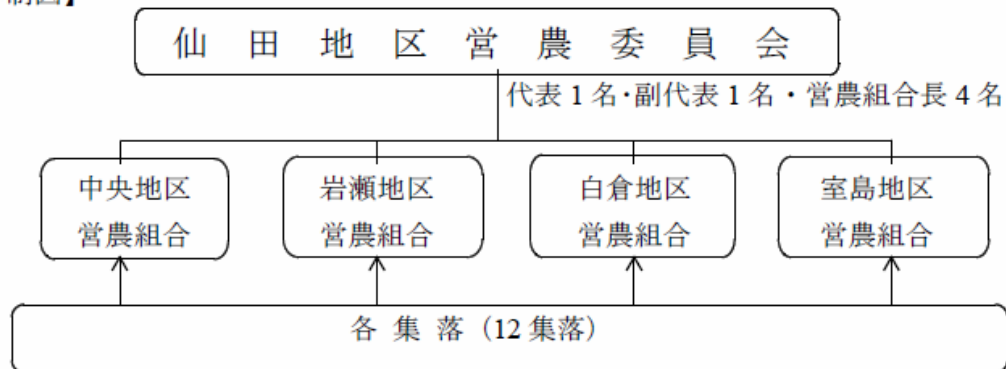
昭和54年以降、新農業構造改善事業、新農村地域定住促進対策事業により、農業生産基盤となる農地や道水路の整備を行うと同時に、こうした一連の事業実施を契機に生産組織の育成を図るなど、農業生産の効率化と営農体制づくりを進めてきたことで、山間部としては生産性の高い稲作が展開されている。

また、仙田地区では、中山間地域等直接支払制度の発足当初(平成12年)から、通農している2集落を含めた12集落全体で1つの集落協定を締結し、第3期対策の現在に至っている。協定を締結するにあたり、仙田地区営農委員会を中心に話し合いを重ね、これまで仙田地区全体で基盤整備や環境整備に取り組んできた経過や、地区全体の農業振興や担い手確保等の状況を考慮し、10年後の将来を見据えての協定締結であった。

体制としては、12集落(農区)を4ブロックに分けて地区営農組合を設立し、各集落の活動を基本としながらも、地区営農組合が各集落の活動を補完することができる集落の枠を超えた相互支援体制を整備した。さらに、農作業受委託等の農業支援を行い、各地区営農組合の活動をサポートする機能を持つ農業生産法人として、(株)あいポート仙田を平成22年に設立した。法人を設立したことで、仙田地区においては、高齢等により耕作が困難となる農業者が出てきた場合に、まずは集落がサポートし、それができない場合は地区営農組合が、それもできない場合は法人が請け負うという方式で、地区全体で営農を維持していく仕組みが構築されている。

図3 中山間地域等直接支払体制図

【直払体制図】



## ウ 当該集団等の活動による構成員等の経営の改善、後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進状況

農産物直売所「仙田楽楽市場」を開設したことで、お客に喜んで買ってもらえることが農家のやりがいに繋がっており、特に女性や高齢者が意欲的に野菜や山菜等の生産・販売に取り組んでいる。

また、地区内に法人が設立されたことで、後継者を受け入れる体制が整備されつつあり、平成23年度からは新規就農者を1名雇用するなどし、後継者育成に努めている。さらに農産物直売所及び食堂等の運営のため、女性パートを5名採用するなど、女性の視点



写真4 野菜等の販売



を生かして地域活性化の一翼を担ってくれることが期待されている。

## (5) むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

### ア 生活・環境整備面の取り組み状況

(株)あいポート仙田を、高齢者等の地区住民の生活支援(高齢者世帯の屋根雪下ろし、高齢者向けパソコン教室等)も行う「地域マネジメント組織」として位置づけ、仙田地区での「暮らし」全体を支え、サポートする体制を構築した。平成23年度は、除雪受託26戸、任意組合等の事務や施設の管理受託を3組織から受け、安心して暮らせる仙田地区の構築に寄与している。



写真5 雪おろし

また、地区内で日用品を購入することができない状況を解消するため、本年7月に仙田体験交流館キラリの改装を契機に、隣接する直売所で日用品の販売も行うことにより、地域住民が安心して生活できる環境を整えている。

このほか、各集落では、地域住民総出で草刈りや水路清掃など基本的な農道・水路の維持管理のための共同活動を定期的に行っているほか、道路沿いの花壇づくり、集落名の入った看板設置など地域の環境保全活動に努めている。また、3年毎に妻有地域(十日町市、津南町)で開催される大地の芸術祭作品の設置協力なども地域を挙げて行っている。

### イ 当該集団等による生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等への寄与状況

中山間地域総合整備事業により整備した「仙田体験交流館キラリ」は、本地域の中心部で国道に面しており、平成12年に「瀬替えの郷せんだ」として道の駅に登録され、地域の案内や地場産品の展示、体験交流、イベント開催など、地域資源を活用したグリーン・ツーリズムを推進する拠点施設として、農家・非農家を含む地区住民の参加により仙田地区の魅力を発信する様々な取り組みを行っている。また、仙田地区開発振興協議会では、地域の豊かな自然条件を生かして、「山菜祭り」、「田植え・稲刈体験」、「収穫祭」、「ホタル鑑賞会」、「雪まつり」等のイベントのほか、野菜の収穫体験、そば畑のオーナー制度などを四季を通じて実施しており、地域住民同士のふれ合いやコミュニティ活動の強化に繋がっていることに加え、都市住民との交流の場となっており、平成23年度の人口交流は約5,000人となっている。



写真6 収穫祭



写真7 雪まつり

## ウ 当該集団等の活動による地域への定住促進状況等

仙田地区には、定年退職後に都市部から移住したシニア世代が複数戸おり、みな集落活動に参加したり、農業の担い手として活動していることから、今後もセカンドライフを仙田地区で過ごしたいという移住希望者がいれば協議会で積極的な支援を行うこととしている。